

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

新しい靴は、はじめのうち足が痛い。ところが、しばらくはいていると、いつのまにか痛くなくなる。靴がやわらかくなっただけではない。足の形に合わせて、靴のほうが少しずつ形を変えたのだ。

道具には、このように使う人に合わせて変わっていく性質がある。長く使われた包丁は、持ち主の研ぎ方のくせに合わせて刃の形が変わる。使い込まれた野球のグローブは、持ち主の手の形を覚えている。道具は、使われた時間を自分の形の中にためこんでいくのである。

しかし、変わるのは道具だけではない。人のほうも、道具に合わせて変わっていく。はじめて筆で字を書く人は、筆先がどちらに曲がるか分からず、思いどおりの線が引けない。それでも練習を重ねるうちに、手が筆の動きを覚え、力の入れ方が自然に変わっていく。人は道具を使いながら、道具を使える体を作っているのだ。

つまり、道具が「手になじむ」とは、道具と人がおたがいに歩み寄った結果なのである。どちらか一方だけが変つたのではない。両方が少しずつ形を変え、ちようどよいところで出会ったとき、道具は体の一部のように感じられる。

私たちの身のまわりには、買ったその日から完成している便利な物が多い。それはたしかにありがたい。けれども、時間をかけて自分と道具が歩み寄っていく楽しみは、そうした物からは得にくい。一本の鉛筆でもよい。長く使い続けると、道具と自分との間に、自分だけの関係が生まれていることに気づくだろう。

(この問題のための書き下ろし)

問一 「靴のほうが少しずつ形を変えた」とありますが、靴は何に合わせて形を変えたのですか。本文中から
 五字以内で抜き出しなさい。

問二 筆者は、道具は使われた時間をどうしていくと述べていますか。「いく」につながるように、本文中から十五字以内で抜き出さない。

[illegible]

問三 第三段落で、筆者が筆で字を書く例を出したのはなぜですか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 筆は、包丁やグローブよりも古い道具であることを示すため。

イ 道具だけでなく、人のほうも道具に合わせて変わっていくことを示すため。

ウ
字を上手に書くには、よい筆を選ぶことが大切だと示すため。

工 練習をしなくても、道具はいつか手になじむことを示すため。

問四 「道具が『手になじむ』」とは、どういうことだと筆者は述べていますか。「道具」「人」という言

[illegible]

問五 最後の段落で筆者が述べていることとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

買ったその日から完成している物は、使わないほうがよい。

イ
便利な物はありがたいが、時間をかけて道具と歩み寄る楽しきも大切にしたい。

鉛筆のような安い道具は、長く使う価値がない。

工道具は新しいほど使いやすいので、こまめに買いかえるほうがよい。